町内にはさまざまなコミュニティがあり、独自の活動をしています。そんな皆さんの活動やイベントをご紹介するコーナーがステイ・スマイル（笑顔のままで）です。

Stay Smile ステイ・スマイル

Stay Smile 農業の未来へ向かって ～新たな力～

町新規就農支援事業

◆オリックス八ヶ岳農園株式会社

当農園は八ケ岳の麓、富士見町のエコーライン沿いに太陽光利用型の水耕栽培施設として平成27年４月に設立され、同年９月より生産、販売を開始しました。昨年10月には２棟目の施設が竣工し、葉物野菜を年間約300トン出荷する体制を整えました。現在２年目を迎え、地元在住の方を中心に約50名の雇用を生み出せるまでの規模となっています。

主な生産物はほうれん草、ルッコラ、春菊、クレソンで、農薬を一切使用しない安心安全な「八ヶ岳高原ブランド野菜」として販売しています。販売はオリックスグループの営業ネットワークを活用し、主に首都圏、中京圏、関西圏の小売店、レストラン、ホテル等約70社のお客さまから大変好評をいただいています。一方で病気や天候不順により出荷停止を余儀なくされたなど、お客さまに大変なご迷惑をおかけしたこともありました。二度と同じ過ちを繰り返さないよう従業員一丸となり生産手法を改善し現在に至っています。

当時は大変に辛い思いをしてきましたが、今振り返ると設立後間もない時期にこの様な経験をしたことで、早期に多くの事を学ぶことができ、その一つ一つが血肉となり力をつけることができたのではないかと前向きに捉えるようにしています。

日本の農業は、今後も高齢化や次世代の担い手不足から生産量の減少が課題となっています。オリックス八ヶ岳農園は、農業の大規模化、標準化、機械化を通じ、農産物の安定供給に取り組んでいきます。

Stay Smile 本と遊び、本に学ぶ

富士見町子ども読書活動推進委員会 事務局　☎62-7930

富士見町子ども読書活動推進計画（第2次）

今月は協力団体をご紹介します。

【ふじみ子どもの本の会】

年間を通して、富士見町図書館おはなしの部屋での土曜日のおはなし会（第４土曜日以外）を行っていただいています。テーマに沿って絵本選びから読む順番や手遊びも取り入れ、プログラムを立てていただいています。

町図書館イベント（子ども読書の日スペシャル・図書館まつり・クリスマスおはなし会）にも協力していただき、大型絵本やパネルシアター等を使って、大勢の子ども達と一緒に楽しくおはなし会を開催していただいています。

【宅配ボランティア】

① 高齢者の個人宅、施設入所の方に、図書館から本を借りてお届けする。
② 本を読んで差し上げる（１対１が基本）おはなしの相手をする。
③ 地域の高齢者グループと読書を通じて交流する。

年間を通して活動していただきました。

また、昨年は野間読書推進賞の奨励賞を受賞されました。全国から22団体・５個人が推薦され、宅配ボランティアなど５団体・２個人が各賞を受賞しました。

【朗読の会】

月に２回から３回朗読好きの仲間が集まって楽しく活動されています。

富士見中学校、境小学校で読み語りをしていただいています。地域の子ども達に「方言」を残していきたいという思いから、諏訪や富士見の民話や昔話を中心に活動されています。また、年に１回発表会を行っています。

Stay Smile こんにちは。『地域おこし協力隊』です!

こんにちは! 地域おこし協力隊の松井です! 富士見森のオフィスでは、町の方の仕事の悩みからパソコン、スマホの使い方まで無料で相談を受け付けているのですが、今回は、利用者さんにおシゴト相談を受けてみた感想をお聞きしたので、ご紹介したいと思います!

- 「メールが送れるようになってよかった。また次も聞きに来るのでお願いします。」（永井さん）
- 「わかりやすい言葉で質問者のペースで受け答えしてもらえたので、分からないところが分かってすごく良かった。何かあったら訪ねたい雰囲気の場所です。」（Kubokawaさん）
- 「正直なところ、森のオフィスが何をしているところか分からなかったが、HPを作りたくてどこに頼んだら良いか分からなかった時に知り合いに森のオフィスを教えてもらった。相談して、目的はかなった。電話対応が良く、丁寧に話を聞いてくれた。まずは電話した方が良いですよ。」（五味さん）
- 「フリーランスとして営業もしているけど、森のオフィスでなかなかお会いできない人ともつなげてもらえて、自分の仕事も広がるし、知識も広がるし、教えてくれる人もいる。フリーランスの人はもっとオフィスを使ったらいいと思う！」（澤井さん）

おシゴト相談は、毎週火、木、土 13:00〜15:00に受け付けています! どなたでもお気軽に相談にいらしてくださいね!（ご相談内容によって解決できない場合もございますが、ご了承ください）

Stay Smile 子育てはたくさんの笑顔とたくさんの手で ～子どもの場所から～

NPO法人ふじみ子育てネットワーク　☎62-5505

子どもの気持ちに寄り添う

4月に入園を控えた子どもたちが、毎日AiAiで元気に遊んでいます。お友達と一緒に遊ぶのが嬉しくて、同じ遊具やおもちゃで遊んだり、所狭しと駆け回ったりして、きゃっきゃっというはしゃぎ声がAiAiに響きます。でも、少し経つと泣き声に変わることがあります。おもちゃの取り合い、遊具の取り合いなどが原因でおこるトラブルです。時には、手が出たり、噛み付いたりもあります。このように、手が出たり噛み付いたりしてしまう子どもたちに対して、AiAiのスタッフが共有している一番大切な視点は、「悪い子」として見ないこと、「母親の育て方が悪い」と決めつけないことです。乳幼児期は自分を表現する方法が未熟な年齢であること、気質は一人ひとり違うことを前提に、まず、その子がそのような行動を取ってしまった気持ちに寄り添います。（例「おもちゃをまだ使いたかったんだね…」）その上で相手の子どもの表情を見るように促し気持ちを代弁します。（例「叩かれて痛かったんだって」）気持ちの表現方法として相手を打つ、噛むということは相応しくないということを丁寧に伝えていくのは、子どもに関わる大人の役割です。母親は自分の子が手を出した場合、どうしても手を出してしまった経緯より叱責を優先します。AiAiスタッフは、その母親の気持ちに共感しつつ、子どもの心に気持ちを寄せるスタンスをとります。もちろん、大きな怪我に至らないように気を配るのは当然です。また、お母さん同士で「使いたかったんだよ」「使いたかったんだね。でも叩かないでお口で言ってね」と子どもの気持ちを代弁し合える信頼関係があると、小さな子ども同士のトラブルは子どもの成長にとっての栄養に変わっていきます。そのためには、自分の子も他の子も同じ子どもとして理解することが必要です。少し前の子育ての環境であれば、小さな子ども同士のトラブルの対応も違ったかもしれません。時代とともに子育ての考え方も少しずつ変化しています。